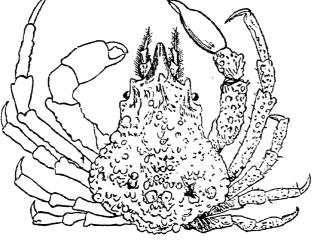
●ちありに屬 Timrinia, Dama, 1852. ●ちありに屬 Timrinia, Dama, 1852.	●日本蟹類通説 (i	dusen. 7 tes Capitel—Genealogische Betrachtung P. 159. 此章最も有益なり初め Germlayer theory ト し後生動物發生の諸說を列記し評しあり。 American Naturelist に H. V. Wilson の譯在 1894. SEDGWICK—Inadequacy of Cellular theory	(234) 日本蟹類通說(寺崎) 1886 METSCHNUKOFF
9族 ERIDAE, Miers, 1879. ERIDAE, Miers, 1879. 「育して眼窩の下壁を構成す本邦産 「育して眼窩の下壁を構成す本邦産 工語 Pericorinae, Miers. に隷す Timrinia, Dana. 1852.	寺崎 留 吉	dusen. 7 tes Capitel-Genealogische Betrachtung P. 126- 159. に章最も有益なり初め Germlayer theory より起 に後生動物發生の諸説を列記と評とあり。 American Naturelist に H. V. Wilson の譯文あり SEDGWICK-Inadequacy of Cellular theory Q. J.	yologische Studen an Me

なり甲背は疣粒を布散し鉗脚は步脚と同様の長さを有す 端のみ微に左右に曲斜す眼窩小くして他屬の如く筒狀に 甲殻梨子狀にして頭角は二岐すれごも相互に接近して頂 の著しきものなく唯僅かに外方に向ふて小突起あるのみ 突起せず眼窩の上には鈍き小棘あり大觸角の基礎は齒針 ちありにあ

T. cornigera(M.-Edw.)Dana, 1852.



あ に あ b ち 自) (大 然

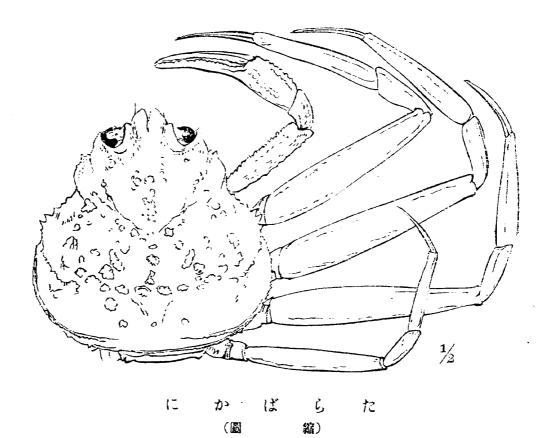
NII-Electronic Library Service

戌

(235)

-

•



九

亘る稜線の上に前より次第に後に向つて大くなれる所の

沽

拙

14

眉

**HH** 

小針疣を列生す針疣は終に尋常の塊狀疣に移りて甲側鰓

(236)

## 日本蟹類通說(寺崎)

Chionaccetes opilis. Wriger.

10	町	は	دي مــــ	序さ	下乱			田	白が	ホム	笛の	る 中	日上	
บ้	回せられ前半は	少少	對	らは	殻の輪廓は略ぼ等邊三角形にして甲	-,	$\overline{\}$	果 し	略	合衆	蛮の一なり學名種屬の記	其内	本海	
T	n	1	の	10 /	脳		叔	T	씨다 (구	える	17	の	市北	<u></u>
被	前	弈	齒	ち	廊	青森	前	ধ্য	滴	1=24	ĥ	の美	部	ナ
ŝ	半	起	2	扁	13	灣	沿	臣	虚	ĥ	奥	<u></u> 味	5	ッ
而	は	Ĩ.	な	平	略	1-3	赵前沿海	な.	せ	寄	名	な	產	ク
τ	大	τ	ņ	に	ぼ			B	ろ	賶	種	3	Ē	ス
棘	小	Ξ	こなり眼窩	i	等	雒	雄	Ľ	Ŀ	國より寄贈せる	屬	を	の産にして	沃
針	大小不規則	く突起して三角形の棘となる甲背の各部微か	窩	寧ろ扁平にして頸	邊	雄二、	雄一、雌一、(乾製)	て幼兒なることなれ	ほ適當せるを發見したり但し北米標本は形	З	の	肉の美味なるを以て賞せらる形大にして實	τ	ナックス族に入る)
5	規	形	は不	頸				な	見	北太平洋の	記	T	我	んん
頖	則	() ++	不同	部	角	$\sim$	赃	n	Ĺ	本	載	賞	邦	ن ب
*	の 塊	粿	冗入	相め	形	-	~	ぼ	12	4	せ	せ	北	
ら儘	光	с 72	完全、其前壁	2(	۴- ۲	π. C		止	9 79	体の	5	5,	陸	
開へ	彩の	るる	甘	小金	T	ŏ	乾	詞を	्म	の標	9	С Т	退	
4	标	Ē	前	n.	Ē	年七	製	こ言別	1	行示 CJ DD	の振	1	山田	
唯	20	背	倿	T	雇	Я	$\smile$	10 12	-¥	に	152: な		パエ・ パー	
頰	散	の	に	浑	13	逃		る	標	對	T	7	T	
部	疣を散布し後半	各	棘	め	尻は適度に	(一九〇〇年七月池田岩治氏)		ば正鵠を認むるを得。	本	ĨL.	載せるもの極めて罕なり近	Ť	屋	
よ	ĩ	部	r	b	度	治		得	13	比し	な	實	捅	
b	後	微	具	頭	に	<u> </u>		Ō	形	τ	ĥ	Ē	漁	
紀を以て被ふ而て棘針の類一も備へす唯頰部より甲側に	半		棘を具へず窩	稍や縊られて窪めり頭角は短	一彎曲さ				小なる	此	近	に本	北陸道沿岸にて屢捕漁せられ	
側	· は 栗	に副	Ţ	13	曲				な	の奥	頃北	邦大	5	
12	采	un	涵	<del>.</del>	-				る	ENT.	11	*	n	

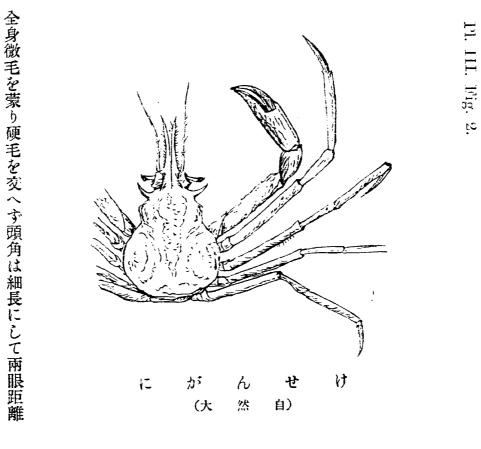
大なる標本にては甲殻の徑七八寸に達し第二步脚の全長 れごも成長したる乾製品には全く之を脫落せり。 密生す幼稚なる標本にては體に一般に微かなる絨毛を蒙 なり發育したる標本にては此の節には鉗節同様の齒疣を 歩脚稍や扁平第二歩脚の最長節は甲殻の長徑と略ば等長 部は稍太く、兩剪爪の中間に空隙を殘さず鋸齒を列生す、 一尺五寸に及ぶ。 の左右に位して長さ頭角に及ばず眼は太く短くして横出 眼窩さ小觸角竇さの融壁をなす大觸角極めて短かく頭角 **眩部に連綿して消滅す、大觸角は基節極めて簡單にして** か ば ß 12 72 頭) (面 腹 鄂 形、 散布し鉗は細長、基 鉗脚は比較に小くし なし腹節は雄は長梯 る ì て齒狀の細疣を密に る部分には毛絨を蒙 0 角膜より裸出せ 唯は圓形をなす 顎脚に著しき點

NII-Electronic Library Service

(237)

れなり他に異狀を發見せす若し寄贈品が果して幼稚の蟹に甲殻の大なるこご步脚の稍や短かきかど覺ゆるこご是此の蟹に前訴米國標本の(m. opuis, rroym、に比較する	眼窩不完全、甲殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひ後棘	一個銳尖なるものありて之れを護る眼は細小にして横に	突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭
	適度に膨揚すれごも著こき突起物なく粗なる疣を散布す角は大部分平行して先端左右に曲斜し銳尖をなす、甲背甲殻は長梨形にして前端伸びて長き一對の頭角となる頭り設は長梨形にして前端伸びて長き一對の頭角となる頭らば全く同一種なることを得。	眼窩不完全、甲殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひ後辣●おれごに屬 Oregonia, Dana, 1852.●おれごに屬 Oregonia, Dana, 1852.(いなくす族に入る)(いなくす族に入る) (いなくす族に入る)	るものありて之れを護る眼は細小にしてなくす族に入る) いにして前端伸びて長き一對の頭角ごないにして前端伸びて長き一對の頭角ごないにして前端伸びて長き一對の頭角ごないにしても著しき突起物なく粗なる疣を苛
にして其發育中步脚が稍縮小すること確かに瞭なるに至	適度に膨揚すれごも著こき突起物な~粗なる疣を散布す角は大部分平行して先端左右に曲斜し銳尖をなす、甲背甲殻は長梨形にして前端伸びて長き一對の頭角こなる頭(いなくす族に入る)	甲殻の線邊稍廣がりて眼の根基を被ひてに屬 Oregonia. Dana, 1852. いにして前端伸びて長き一對の頭角とない。 うれごも著しき突起物なく粗なる疣を散いる。	ここに屬 Oregonia, Dana, 1852. いにして前端伸びて長き一對の頭角とないにして先端左右に曲斜し銳尖をなす、いにして前端伸びて長き一對の頭角とない。 日殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひ 日殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひ
らば全く同一種なるこさを得。 にして其發育中步脚が稍縮小するこさ確かに瞭なるに至	適度に膨揚すれごも著こき突起物なく粗なる疣を散布す角は大部分平行して先端左右に曲斜し銳尖をなす、甲背甲殻は長梨形にして前端伸びて長き一對の頭角となる頭(いなくす族に入る)	甲殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひっれごも著こき突起物なく粗なる疣を散子行して先端左右に曲斜し銳尖をなす、かにして前端伸びて長き一對の頭角とななくす族に入る)	こものありて之れを護る眼は細小にしてかにして前端伸びて長き一對の頭角とないにして前端伸びて長き一對の頭角とななくなくす族に入る)
●おれごに屬 Oregonia, Dana, 1852. らば全く同一種なることを得。 にして其發育中步脚が稍縮小すること確かに瞭なるに至	適度に膨揚すれごも著しき突起物なく粗なる疣を散布す角は大部分平行して先端左右に曲斜し鋭尖をなす、甲背甲殻は長梨形にして前端伸びて長き一對の頭角となる頭	甲殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひっれごも著しき突起物なく粗なる疣を散いたとなる疣を散いたとして先端左右に曲斜し鋭尖をなす、かにして前端伸びて長き一對の頭角とな	こものありて之れを護る眼は細小にしてりれごも著しき突起物なく粗なる疣を散かりていの根基を彼ひられごも著しき突起物なく粗なる疣を散かしことで先端左右に曲斜し鋭尖をなす、かにして前端伸びて長き一對の頭角とな
(いなくす族に入る) ●おれごに屬 Oregonia, Dana, 1852. しば全く同一種なることを得。	適度に膨揚すれごも著こき突起物なく粗なる疣を散布す角は大部分平行して先端左右に曲斜し鋭尖をなす、甲背	甲殻の緣邊稍廣がりて眼の根基を被ひっれごも著こき突起物なく粗なる疣を散ったことないなくれなる疣を散	こものありて之れを護る眼は細小にして甲殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひっれごも著しき突起物なく粗なる疣を散くれこる先を散かったして先端左右に曲斜し鋭尖をなす、
甲殻は長梨形にして前端伸びて長き一對の頭角となる頭●殻は長梨形にして前端伸びて長き一對の頭角となる頂し種なることを得。 (いなくす族に入る)	適度に膨揚すれごも著とき突起物なく粗なる疣を散布す	眼窩不完全、甲殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひ後棘適度に膨揚すれごも著しき突起物なく粗なる疣を散布す	一個銳尖なるものありて之れを護る眼は細小にして橫に眼窩不完全、甲殻の綠邊稍廣がりて眼の根基を被ひ後棘適度に膨揚すれごも著しき突起物なく粗なる疣を散布す
大部分平行して先端左右に曲斜し鋭尖をなす、 ●おれごに屬 Oregonia. Dana, 1852. ●おれごに屬 Oregonia. Dana, 1852. (いなくす族に入る) て其發育中步脚が稍縮小すること確かに瞭なる		眼窩不完全、甲殻の線邊稍廣がりて眼の根基を被ひ後棘	一個銳尖なるものありて之れを護る眼は細小にして橫に眼窩不完全、甲殻の緣邊稍廣がりて眼の根基を被ひ後辣
中步脚が稍縮小すること確かに瞭なる でに屬 Oregonia. Dana, 1852. でに屬 Oregonia. Dana, 1852. でにして前端伸びて長き一對の頭角とな たにして前端伸びて長き一對の頭角とな やにして前端伸びて長き一對の頭角とな やにして先端左右に曲斜し鋭尖をなす、 甲殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひ 甲殻の縁邊稍廣がりて眼の根基を被ひ	突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭一個銳尖なるものありて之れを護る眼は細小にして橫に	突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭	
中步脚が稍縮小すること確かに瞭なる でに屬 Oregonia, Dana, 1852. でに屬 Oregonia, Dana, 1852. でによす族に入る) たにして前端伸びて長き一對の頭角とな いにして前端伸びて長き一對の頭角とな りれごも著しき突起物なく粗なる疣を散 りれごも著しき突起物なく粗なる疣を散 りは根基、簡單、鞭狀部長くして糸の加 月は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の加	角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭一個銳尖なるものありて之れを護る眼は細小にして橫に	角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭	の兩側
中步脚が稍縮小すること確かに瞭なる でに屬 Oregonia. Dana, 1852. でに屬 Oregonia. Dana, 1852. でによう族に入る) たにして前端伸びて長き一對の頭角とないにして前端伸びて長き一對の頭角とないにして前端伸びて長き一對の頭角とないにしても、前輩、簡単、鞭狀部長くして糸の加りは根基、簡単、鞭狀部長くして糸の加りは根基、簡単、鞭狀部長くして糸の加りに長いは脚り構築の線邊稍廣がりて眼の根基を被ひ	節の剪刄の間少く空隙を殘し末節內縁に鈍齒を帯ぶ步脚角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭一個銳尖なるものありて之れを護る眼は細小にして橫に	節の剪刄の間少く空隙を殘し末節內線に鈍齒を帯ぶ步脚角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭	剪兩 及側
中歩脚が稍縮小すること確かに瞭なる でに屬 Oregonia. Dana, 1852. でに屬 Oregonia. Dana, 1852. でに屬 Oregonia. Dana, 1852. でに属 Oregonia. Dana, 1852. でにして前端伸びて長き一對の頭角とないにして前端伸びて長き一對の銀邊稍廣がりて眼の根基をない。 中殻の緑邊稍廣がりて眼の根基を被ひ 甲殻の緑邊稍廣がりて眼の根基を彼ひ 甲殻の緑邊稍廣がりて眼の根基を彼ひ のありて之れを護る眼は細小にして と気を殘し末節内縁に鈍齒を帯ど のなく、 和にしてたよいより更に長し鉗脚圓棒野	細長、爪節比較に短く稍彎曲す全身不規律なる毛茸を豪節の剪刄の間少く空隙を殘し末節內縁に鈍齒を帯ぶ步脚角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭一個銳尖なるものありて之れを護る眼は細小にして橫に	細長、爪節比較に短く稍彎曲す全身不規律なる毛茸を蒙節の剪刄の間少く空隙を殘し末節內線に鈍齒を帯ぶ步脚角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭	> 剪 兩
<ul> <li>らば全く同一種なるここを得。</li> <li>●おれごに屬 Oregonia. Dana, 1852.</li> <li>●おれごに屬 Oregonia. Dana, 1852.</li> <li>●おれごに屬 Oregonia. Dana, 1852.</li> <li>(いなくす族に入る)</li> <li>●おれごに屬 Oregonia. Dana, 1852.</li> <li>(いなくす族に入る)</li> <li>毎歳大部分平行して先端左右に曲斜し鋭尖をなす、甲背角は大部分平行して先端左右に曲斜し鋭尖をなす、甲背角は大部分平行して先端左右に曲斜し鋭尖をなす、甲背角は大部分平行して先端左右に曲斜し鋭尖をなす、甲背の南側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗</li> <li>新長、爪節比較に短く稍彎曲す全身不規律なる毛茸を蒙</li> </ul>	る。 る。 る。 の前はなるものありて之れを護る眼は細小にして横に しの前側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗 の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗 の兩側より描出して之れなり更に長し鉗脚圓棒狀、鉗 の兩側より描出して之れな態る眼は細小にして横に	る。 知長、爪節比較に短く稍彎曲す全身不規律なる毛茸を蒙節の剪刄の間少く空隙を殘し末節內縁に鈍齒を帯ぶ步脚角の兩側より描出して之れより更に長し鉗脚圓棒狀、鉗突起し大觸角は根基、簡單、鞭狀部長くして糸の如し頭	• 9 兩

日本蟹類通説(寺崎)



より著しく長し脚は細長にして鉗脚第二脚と略ぼ長さを

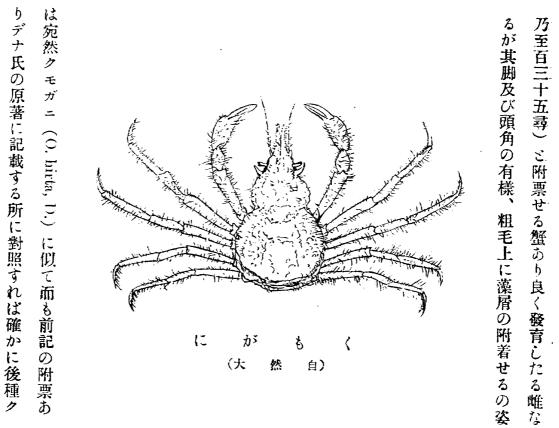
原著 Dana; U. S. Expl. Exped. crust., Vol. I. P. 106

(). gracilis, Dana, 1852.

(238)

日本蟹類通說(寺崎)

に多少の隙あり低き齒を帶ぶ。
一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (一九〇二年島羽源藏氏)
此の稀有にして貴重なる標品の出所として地名を以て種一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二(一九〇二年島羽源載氏)
名に冠す。 此の稀有にして貴重なる標品の出所さして地名を以て種一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1ヵ0ニ年島羽源藏氏)
くもがに に、陸前氣仙郡小友、沿海、雄二(1九〇二年島羽源載氏)
<ul> <li>一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二(1九〇二年島羽源載氏)</li> <li>〇. hirta, Dana, 1852.</li> </ul>
<ul> <li>「、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1 九〇二年島羽源載氏)</li> <li>「、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1 九〇二年島羽源載氏)</li> <li>(1、 hirta, Dana, 1852.</li> </ul>
<ul> <li>一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1 九〇二年島羽源載氏)</li> <li>一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1 九〇二年島羽源載氏)</li> <li>〇. hirta, Dana, 1852.</li> <li>〇. hirta, Dana, 1852.</li> <li>III. Fig. 3.</li> </ul>
<ul> <li>へ、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1 九〇二年島羽源載氏)</li> <li>中、防有にして貴重なる標品の出所さして地名を以て種名に冠す。</li> <li>へもがに</li> <li>へもがに</li> <li>ひ. hirta, Dana, 1852.</li> <li>ひ. hirta, Dana, 1852.</li> <li>ゴ. Fig. 3.</li> <li>ゴ. Fig. 3.</li> </ul>
<ul> <li>一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1 九〇二年島羽源載氏)</li> <li>此の稀有にして貴重なる標品の出所として地名を以て種名に冠す。</li> <li>くもがに</li> <li>O. hirta, Dama, 1852.</li> <li>O. hirta, Dama, 1852.</li> <li>TH. Fig. 3.</li> <li>全身粗き茸毛を蒙り殊に脚に於て甚し頭角の長さ兩眼の 軍離より長からず、歩脚は細しと雖ごも體に比しては長</li> </ul>
<ul> <li>一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 CT 九〇三年島羽源義氏</li> <li>此の稀有にして貴重なる標品の出所として地名を以て種</li> <li>名に冠す。</li> <li>くもがに</li> <li>O. hirta, Dana, 1852.</li> <li>O. hirta, Dana, 1852.</li> <li>正語 U. S. Expl. Exped. Crust., Vol. I. P. 107. Pl.</li> <li>III. Fig. 3.</li> <li>全身粗き茸毛を蒙り殊に脚に於て甚し頭角の長さ兩眼の</li> <li>距離より長からず、步脚は細しと雖ごも體に比しては長</li> <li>からず。</li> </ul>
<ul> <li>一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1九011年島羽源蔵氏) 此の稀有にして貴重なる標品の出所として地名を以て種 名に冠す。</li> <li>くもがに</li> <li>O. hirta, Dana, 1852.</li> <li>原著 U. S. Expl. Exped. Crust., Vol. 1. P. 107. Pl.</li> <li>III. Fig. 3.</li> <li>全身粗き茸毛を蒙り殊に脚に於て甚し頭角の長さ兩眼の 距離より長からず、步脚は細しと雖ごも體に比しては長 からず。</li> <li>一、靑森 唯一、(1八九九年十月)</li> </ul>
ー、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (「九〇三年島羽源戴氏) 此の稀有にして貴重なる標品の出所として地名を以て種 くもがに O. hirta, Dana, 1852. の. hirta, Dana, 1852. 原著 U. S. Expl. Exped. Crust., Vol. 1. P. 107. P. III. Fig. 3. 全身粗き茸毛を蒙り殊に脚に於て甚し頭角の長さ兩眼の 距離より長からず、步脚は細しと雖ども體に比しては長 からず。 一、青森 唯一、 (二八九九年十月) 米國にて此類の蟹を「スパイダー、クラブ」若くは單に「ス
ー、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1 九011年島羽源蔵氏) 此の稀有にして貴重なる標品の出所として地名を以て種 そに冠す。 くもがに O. hirta, Dana, 1852. O. hirta, Dana, 1852. 原著 U. S. Expl. Exped. Crust., Vol. I. P. 107. P. III. Fig. 3. 全身粗き茸毛を蒙り殊に脚に於て甚し頭角の長さ兩眼の 距離より長からず、步脚は細しと雖ども體に比しては長 からず。 一、青森 唯一、(1 スカカ年+月) 米國にて此類の蟹を「スパイダー」クラブ」若くは單に「ス パイダー」と呼ぶ由、今此の種に其譯意を命ず。
<ul> <li>一、陸前氣仙郡小友、沿海、 雄二 (1九011年島羽源蔵兵) ・ </li> <li>名に冠す。         <ul> <li>くもがに</li> <li>(). hirta, Dana, 1852.</li> <li>(). hirta, Dana, 1852</li></ul></li></ul>



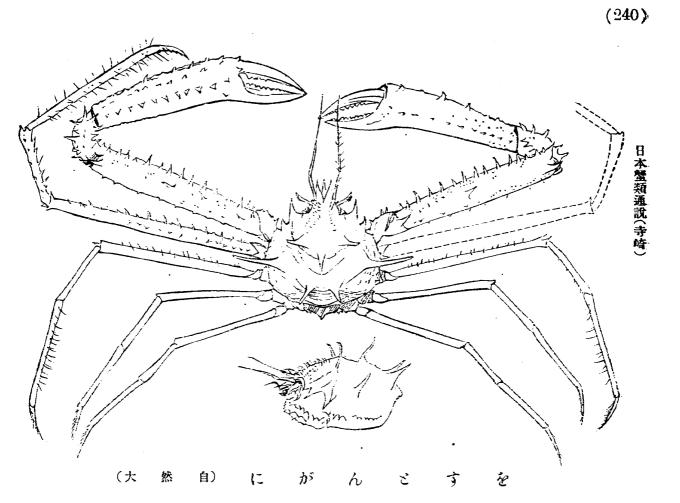
モガニに適合す、知らず何處に誤謬あるや。

=

NII-Electronic Library Service

(239)

(III)	日本蟹類通説(寺崎)
Oregonia gracilis, <i>Dana</i> . Behring sea—Oregon 間の産	個は前部に左右鰓部に各一個、心臟部に一對あり眼窩後
St. longirostris (Fabricius), Micrs. Naples, Italy 雀	甲殻背面微かに粟粒を散布し七個の棘針を突起す就中三
Sternorhinchus rostratus (Lin.), Meinert. Norway. 産	此奇異なる蟹の採集者オストン氏の名を以て種名さなす
考のため附記す。	一相摸洋ヨドミ(土土〇〇年三月オストン氏)
此の他海外より理科大學へ寄贈せられたる標本如左、參	C. owstoni, sp. nov.
是れにて本邦産、鋭頭類完結す。	れすとんがに
一般に毛茸を蒙らす。	一種は確かに第三新種さして考へらる。
裸出せり何れも爪節は比較に短くして少く曲れり、全身	此屬を設け南亞群島より獲たる二種の蟹を包容せり左の
れより次の節には針と長き粗毛とを列生す後二對の脚は	マイアース氏「チャレンジャ」號探險船の採集品によりて
步脚は細長にして就中前二對は最長節に二列の針あり其	棘針を數多列生し脚は一般に細長なり。
列を帯ぶ。	甲背は數對の長き棘を突起し钳脚並に步脚前二對は共に
折れ、剪爪の中間少しく隙ありて爪の内面は各粒狀の齒	せらる眼は比較に細小なり外顎脚細くして小棘を叢生し
<b>し、兩節の中間節も亦數個の短棘あり剪部は稍や斜めに</b>	發す眼窩極めて不完全唯頭角ご鋭き後棘さによりて保護
に鋸齒狀の針列を帯び鉗節は縦にて四行 の 小 齒 列を呈	ご垂直線をなす、大觸角は細長にして簡單なる基礎より
<b>しく突起せり大觸角に粗毛あり鉗脚最長節の上縁前縁共</b>	鼎立す甲背數個の發達したる棘あり胃部は屈曲して殆ん
て細き針を散生す、眼は小くして細く角膜より先きに少	甲殻は球狀にして、頭角は一對に分れ小觸角竇間の棘こ
殻の兩脇に鋸歯狀に列せる細針あり腹胸西部共に短くし	(イナクス族に入る)
棘の少し後に小針あり又た眼窩中緣上面にも小針あり甲	●おすごんがに巖 Cyrtomaia, Maers, 1886.



II. lyratus, Duna.	II. arancus, <i>Leach</i> .	of Fundy 產	Hyas coarctatus, <i>Leach</i> .	(以上イナクス族に入る)	tic. 等の産	Unionaccetes opilis, Kroyer. North Pacific, N. Atlan-	yurd <b>全</b>	Euprognatha pustellifera, Stimpson.
Behringsea – Puget Sound 間の	North Atlantic. 產		cach. Vineyard sound. 料じ Lay	族に入る)		Kroyer. North Pr		llifera, Stimpson.
et Sound	產		ound. 並に			teific, N. 1		Marthas Vine-
間 の			, Bay			Atlan-		Vine-

## 產

Microphrys bicornutus, A.M. Edwards. Florida, Hyastenus longipes, Dana. North Pacific 產

West Indies 產

(以上マイア族に入る)

Mithrax sculptus, Stimpson. Florida N. E. Coast of U. S.

Lissa Chiragra, (Herbst) Licach. 產地名遺失

但し

此の種は太西洋の産なり

四.

(241)

	奄美大島及沖繩採集旅行記(箕作)
Onchidium (三崎のとは 異なれり),Patella, Leptoplama,	を示す尚は今回余の最も着目せしはナマコ類にして池田
Chiridota (1sp.), Squilla (小黑 no 班線), Callianassa,	ひ同第二は東南に向ひ撮影したるなり第二は瀨戸の東口
の獲物なら先づGephyrea (3sp.), Synapta (1sp. 二疋),	たるなり前號寫眞第一は俵小島の處より瀨戸を西北に向
らず宿より 西の汀に出でゝ 汀岩石間の 採集を 試む餘り	年之を試みんことを渴望し居たりしに今囘之を果すを得
午後三時頃雨少しく止みたれば我々の熱心最早制すべか	冨めるなるべく採集には屈竟の塲所ならんど想ひ余は多
積はなきなり、	然の良港多し、且つ亞熱帶に近き事さて必ず水産動物に
扁蟲に偏したり (はあらず)併し他の動物も决して怠りたるとす きょう	珠き所にて三十五乃至四十五尊、海岸線非常に彎曲し天
	其長凡そ十五海里、其幅凡そ一乃至五海里、其深さ最も
	加計呂麻島この間に東南…西北東西に横はる海峽にして
	る間に大嶋の瀨戸に付きて少し述べんに此瀨戸は大嶋こ
	ふ所にて此風雨は實につらきなり、家に閉ぢ込められ居
	三月二十八日 昨夜より風雨烈し、是よりいざ採集ご言
	<b>箕 作 佳 吉</b>
美	●奄美大嶋及沖繩採集旅行記 (承前)
And the second s	
A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	(以上ぺりせり族に入る)
	L. emarginatus, <i>Leach</i> . New England 產
君の最も渴望せしは星形蟲(Gephyrea)なりき竹下君は	Libinia dubia, M. Edwards. Woods Hall, Mass. 袏

— Æ